

特別寄稿

医療ニーズの高い全世代共通要介護者への生活の場での支援の重要性

一般社団法人だんだん会 理事長 宮崎 和加子

はじめに

「還暦からの出発」と、2016年4月に東京を離れ新たな地へ移住し、そこで訪問看護事業を主軸に看護・介護関連事業を開始しました。人口集中の都市ではなく、人口減少地域でのさまざまな取組みの中で、今一番感じているのは、「医療ニーズの高い全世代共通要介護者への生活の場での生きることへの質の高い支援の重要性」です。

移住先は、山梨県北杜市（人口約4万7千人）。八ヶ岳南麓で高い山々の眺望がすばらしくまさに風光明媚。（あとで知ったのですが、移住希望先No.1だそうです）

山梨県北杜市での
事業開始までの経緯

4つの事業実施

看護師になつた時から60歳の還暦までの40年弱の間、私の仕事は、主に三つ。「訪問看護の実践・制度

法人だんだん会」を立ち上げ、非営利運営や住民主体・協働の事業推進を理念に掲げて事業計画を始めました。

化・普及（在宅ケアの充実）、前全国訪問看護事業協会事務局長「認知症の人の生きること支援（主にグループホーム）」「地域住民とともにまちづくり」のようなこと。

そして還暦。「還暦からの人生をどう生きるか」をじっくりと考え、選んだことが二つ。一つ目は、「東京を離れ自分が心地良いと思う地域で暮らすこと」。二つ目は、「私ができる事業をさせていただくこと」。その内容は、①地域住民（患者・利用者）に一番身近な場で、人生の苦楽を共有できる現場の事業・仕事。②その地域に足りないサービスをつくり出すこと。③私が責任をもつてできる事業・仕事。還暦以降の「人生の第3期」を自分なりに主体的に生きるスタートです。

訪問看護事業所ですが、あえて「訪問看護ステーション」とは命名せず、「地域看護センターあんあん」としました。理由は、「利用者宅への訪問看護」だけではなく、地域全体を視野に入れて、地域に必要なサービスをつくり上げて多様に実践していく看護職集団という意味合いからです。利用者宅への訪問活動も実施しますが、定期巡回など他のサービスも兼任しながら、地域での生活を支えていく役割を果たす「地域看護センター」です。

特に、医療ニーズの高い利用者の増加に伴い、在宅で自分らしく暮らしを続けられ、生を全うできるようにするためには、「訪問看護」の質が要だと思つてしまふ。2年間の実践の中で、当事

業所が看護させていただいた方の在宅死亡率は約85%です。

縁があつてベテランナースの集団となりました。医療ニーズの高い多様な利用者の方々を支え、ご自宅での看取りも旺盛に支援させていただいています。

②『定期巡回でくべく24』

いわゆる「定期巡回・随時対応サービス※1」です。この地域で最期まで住み続けられる地

域づくりを目指すのであれば、どうしてもこのサービスの充実が必要。それも医療ニーズの高い方々を支え、一人暮らしの方の在宅看取りを実現するには、看護職がかなり主体的に頑張る定期巡回サービスの姿をつくり上げていこう』ということで北杜市

市の公募に応募し、選定されて、2017年10月から実施しています。自称「看護強化タイプ」の定期巡回・随時対応サービスとして、かなり特徴のあるサービ

スを開設中です。介護職と看護職が一体となって1日複数回の医療処置が必要な方の訪問や一人暮らしの方のご自宅での看取りも含めて幅広い層の方の生活支援・生きることの支援を実践しています。

※1 定期巡回・随時対応サービス 重度者を始めとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護を一體的にまたはそれぞれが密接に連携しながら、定期巡回訪問と随時の対応を行うサービス

③『グループホームわいわい白州』

認知症の方々に「やつて差し上げる介護」をせず、「徹底した自立支援」を実践する場です。

2017年4月にオープン。予想以上の申し込みで開設と同時に満室。現在18人の待機者がいます。

④サロン活動

法人設立の時点から一緒に事



みやざき わかこ 宮崎 和加子 氏

一般社団法人だんだん会 理事長

【経歴】

- 1977年 東京大学医学部付属看護学校卒業
- 1978年 柳原病院地域看護課にて訪問看護従事
- 1992年 北千住訪問看護ステーション開設 所長（東京都指定第1号）
- 1993年 医療法人財団健和会 訪問看護ステーション統括所長（13か所の事業所）
- 2001年 社会福祉法人グループホーム福さん家 ホーム長
- 2004年 社会福祉法人すこやか福祉社会 理事（6グループホーム・9ユニット）
- 2007年 医療法人財団健和会 看護介護政策研究所所長
- 2010年 一般社団法人全国訪問看護事業協会 事務局次長
- 2013年 一般社団法人全国訪問看護事業協会 事務局長（2016年3月まで）
- 2016年 一般社団法人だんだん会設立 理事長

【主な著書】

- 『在宅ケアリスクマネジメントマニュアル【第2版】』（共著）日本看護協会出版会
- 『訪問看護師のための診療報酬＆介護報酬のしくみと基本』（共著）メディカ出版
- 『在宅・施設での看取りのケア』（共著）日本看護協会出版会
- 『訪問看護でいきいき働く！20のステーションから見えてきたキラリ看護の底力』 メディカ出版

業展開を考えている保健師（行政経験も長い）がいます。看護師とは違った視点で保健活動・地域づくり活動を考案し実践しています。

その一つがサロン活動で、特に「認知症カフェ」として「オレンジサロン」を3か所で実施しており、盛況で満杯状態です。



改築中の『わがままハウス山吹』

地域住民主体の新たな事業 展開／『わがままハウス山吹』 (多機能型シェアハウス)／

地域住民の皆さんとの意見交流の場や懇親会などを大切な場と位置付け継続して実施してきました。

その中で、市民団体「八ヶ岳根っここの会」との出会いは貴重でした。安心して住み続けられる地域づくりのために、自ら何かをしようという主体的な市民の会なのです。

そこで、自らが「わたしの茶の間」というつながりづくりのためのサロン活動（当法人は後援）を継続しています。

また、このメンバーが「ホームホスピスのようなものをつくりう」という目標をもち、勉強会を積み重ねてきたという経緯もあり、この地域でそれを実現しようと、当法人と一緒に取り組むことになりました。

その結果、今春「わがままハウス山吹」（多機能型シェアハ

ウス）を開設することになりました。山が見える林の中の空きペンションを改築した10部屋のシェアハウスです。虚弱高齢者の住宅として、あるいは別荘ライフケを楽しめるホスピスとして、軽度から重度者まで長期・短期を問置付け継続して実施してきました。わざ、多様な方々がともに暮らす家です。（国土交通省の「スマートウェルネス住宅等推進モデル事業※2」補助金対象）

※2 スマートウェルネス住宅等
推進モデル事業

世帯の居住の安定確保および健康の維持・増進に資する事業の提案を公募し、予算の範囲内において、国が事業の実施に要する費用の一部を補助するもの

の高い小児が退院できないでいる」「入院・施設はイヤだとはつきり意思表示する方が多くなった」「一人暮らしで身寄りがなくとも最期まで家で！」と、医療ニーズが高くても、重度でも、家族介護に頼らないで家で（地域で）暮らし続けたいという人々が多いことです。

その望みを実現していくためには、訪問診療医などの優秀な医療関係者の存在は必須ですが、「生

活」「暮らし」を支える力量のある専門職（介護職）がカギになると思います。医療は、「生活」が成り立つて初めて提供が可能になるからです。

私のモットーは、「地域包括ケア」の成功のカギは、「たましく・力量のある・プロの看護介護集団づくり」です。

医療ニーズの高い重度者をどう支えるか

前記のような実践を通して痛感するのは、「重度の方がこれほどまでに地域で暮らしたいと思っている」「家で最期までと在宅死を望む方が多い！」「医療ニーズ

「住み慣れた地域に住み続けられる」ということだけでなく、「移り住みたい」と思つてももらえるような地域づくりに住民の皆さんと一緒に取り組んでいるところです。

月刊基金

2

February 2019



特別寄稿

医療ニーズの高い全世代共通要介護者への 生活の場での支援の重要性

アジア・アフリカ各国の政府職員が支払基金神奈川支部を訪問
おたずねに答えて -Q&A-